

令和5年度第2回豊川市給食センター運営委員会議事概要

- 1 開催日時 令和5年11月15日（水曜日）
午前10時30分から午後12時
- 2 開催場所 豊川市南部学校給食センター会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員
会長 高本 訓久
委員 池田 洋子
委員 村上 謙一
委員 山田 清志
委員 上原 正子
委員 今泉 麻美
 - (2) 事務局
教育部長 前田 清彦
教育部次長 酒井 保吏
学校給食課長 林 俊光
学校給食センター所長 大茂 陽一
南部学校給食センター所長 近藤 貴宏
学校給食係長 中村 貴之
栄養教諭 古林 郁子
栄養教諭 近藤 由佳
栄養教諭 神谷 真奈
 - (3) 欠席者 委員 大屋 仁美 白井 博成 杉浦 嘉一郎 計3名
- 4 傍聴者 なし
- 5 議題
 - (1) 令和6年度の学校給食献立について
 - (2) 令和6年度の給食材料費（賄材料費）の必要額（案）について
 - (3) その他
- 6 議事の内容
 - 会議の成立
委員9人のうち6人の出席により豊川市給食センター条例施行規則第4条第2項の規定の定足数に達していることを報告
 - 会長あいさつ
高本教育長あいさつ

○議事の内容

会 長 議題（１）令和６年度の学校給食献立についてですが、事務局の方から説明をお願いします。

事務局：「令和６年度の学校給食献立について」を説明

会 長 豊川市の学校給食献立に絞り込んで、献立作成の考え方と狙いと来年度の４月から３月までを説明していただきました。資料の１ページにも明記されていますとおりの委員の皆様のご意見を献立に反映していくことが定められておりますので委員の皆様、ご意見等をいただけますか。

委 員 「和食の日」というものがあると説明がありましたが、和食について何か工夫されている点がありますか。

事務局 だしについては国産の粗削り節とだし用こんぶ、煮干し粉を多く使用してなるべく子どもたちに自然の味を覚えてもらうように工夫しています。魚についても焼き魚やいわしの梅肉煮などを取り入れていくように工夫しています。

以前の給食センター運営委員会で味噌汁をもっともりこんでほしいという意見をいただきましたので、なるべく多く取り入れるように工夫させていただいております。ただ化学調味料の影響でなかなか塩分や旨味を感じることができなくなった子どももおりますので、だしのよさについて給食だよりやホームページで記載しています。また日本食の基本である「まごはやさしい」を入れるようにして日本の食文化を守るように気をつけております。

会 長 和食への努力もいろいろと考えていただき、手間をかけて、時間をかけて作っていただいていることはわかりました。

以前の会議で味噌汁を多くするように指示されたということですがたしかにこちらの煮味噌で赤味噌を多く使っているようですが、家庭で使用している味噌の種類があると思いますが、味噌汁の回数よりも子どもさんのそれぞれの家庭の味覚、味噌汁で好みが違うような気がするのですがその辺は苦労しませんか。

事務局 自分の家庭の味噌の味があると思います。赤味噌については愛知県産大豆を使用している味噌と説明させていただきましたが、赤味噌しか知らない子どもたちもいるようです。そういう事情もあって給食では白味噌や合わせ味噌の味噌汁なども実施しております。なお塩分の調整等も併せて実施しています。また多少味噌の比率を変えるだけでも味が変わるのではないかと

いろと工夫をしております。

会 長 狙いとしてはいろいろな味の味噌汁、濃い、薄いも含めて赤味噌、白味噌合わせなどいろいろな味噌汁を子どもたちにも飲んでもらいたいと思います。

委 員 牛乳について紙パックに変更され牛乳の残量が減っているようだとお話しを伺いました。確かに紙パックになってから量（中が見えないので）が減ったような感覚があったものですから残量が減ったことはよかったと思います。寒い季節に牛乳を飲みやすくする液体のコーヒー糖ですが、粉末の際にはメロンやバナナ、イチゴなどもあったと思いますが、コーヒー糖だけでなくメロンやバナナ、イチゴも液体ではあるのですか。

事務局 液体となるとコーヒーとココアしかないと伺っております。市によっては、紙パックを開けて粉を使用しているところもあるようですが、他市の状況をみながら判断していきたいと考えております。

委 員 私は地元が豊田市ですが、ストローを刺す穴に液体を注入していました。液体タイプであればこの方法だと思います。ただし、豊川市ではストローを使わない前提で考えているので、今回のようなストローの穴から注入するという形式ではなく飲み口を開けて粉を入れて箸などで混ぜ合わせるという方法で行ったほうが良いと思います。

事務局 ストローの使用状況は、現在、瓶から牛乳パックに移行したばかりということでストローを希望する学校にはストローを配布しています。9校が全校でストローを使用、他の学校では低学年がストローを使用、中高学年がストローレスで対応、ストローを使用していない学校が5校程度です。今は移行の時期なので、学校によってまちまちな状況です。

委 員 私も幼稚園のときは瓶で小学校からストローで飲んでいました。前回の5月の会議では、親としてストローなしで直接飲むのは行儀が悪いと思い、納得できない部分もあったのですが、中学生の娘たちのクラスの話ではあまり気にしてないようです。

会 長 委員自身の体験からご意見をいただきました。中学校で試行的にコーヒー糖を提供してうまくいかないこともありました。委員は小学校入学時からこの方法で使用してきたということでしたが、コーヒー糖をストローの穴から入れることにとまどいはありましたか。

委員 低学年のときからそうだったのですが、2,3回やればできることなので自分としては、それでなんだという覚えはありませんでした。

委員 ストローが有料であれば、仕方がないことですが、無料で配布してくれるということなら、ストローがあるということを通常の状態とすることを検討したほうがよいと思います。紙パックの牛乳を直接飲むということを小学生から奨励しているような感じでちょっと抵抗があります。ただ、今は紙ストローの使用など、廃プラスチックの動きがあるのでストローを廃止するということは、英断だと思いますのでちょっと微妙な感じがします。

会長 コーヒー糖の話からいろいろなご意見がありました。事務局が説明したとおり紙パックに変わったばかりですので試行期間としていまよりもよい方向となるように検討していただきたいと思います。これ以外に何かご意見等がありますか。

委員 11月8日から新米に変更となり、配膳室の前に用務員さんが今日から新米ですと掲示してくれて、児童たちが新米の話題で盛り上がっていました。こういうことは児童の学びにつながるので大変ありがたかったとおります。

会長 新米に変わることを児童生徒に教えてくださいということをお願いしたのですか。

事務局 納入業者より新米に変更するという連絡があったものですから、学校給食課が全36校に周知いたしました。

委員 当校は、掲示して児童に周知してくれたというわけですね。

会長 他にご意見はございますか。

各委員 特になし。

会長 これで議題(1)「令和6年度の学校給食献立について」は終了させていただきます。では議題(2)「令和6年度の給食材料費(賄材料費)の必要額(案)について事務局に説明をお願いします。

事務局：令和6年度の給食材料費(賄材料費)の必要額(案)を説明

会 長 今回の事務局の説明を要約すると諸物価の高騰を受けて、小学校を例として言うと、給食材料費は1食あたり33円98銭不足しており、現状では25円分を公費から補填をしているので実質8円98銭が不足をしていると試算され、1食あたり280円とすれば現状の給食を維持できるという案です。なお増額分については公費負担となるかは今回とは別で検討を進めていきたいということです。

このことについて何か意見等がありますか。

各委員 特になし

会 長 それでは採決を諮ります。学校給食課より提案があった1食あたりの給食材料費（賄材料費）を小学校で280円、中学校で315円とし、増額分については保護者負担増とならないよう検討を進めるということでご承認いただくということでよろしいでしょうか。

各委員 異議なし

会 長 それでは議題（2）「令和6年度の学校給食材料費（賄材料費）の必要額（案）について終了させていただきます。最後に議題（3）「その他」について事務局に説明を求めます。

事務局：議題（3）「その他」、「学校給食用牛乳の紙パック化への対応状況について」を説明

委 員 子どもたちがリサイクルやSDGsなどをすごく勉強しているので、牛乳パックをゴミとして捨てることは残念だと思いかもしれません。できればリサイクルを進めていただきたいと強く思っています。PTAが廃品回収を行っているので、小規模校であれば集めて置いておけば廃品回収に出せるよねというような意見もありました。PTAだけの意見なのでどのようにしていくかは、考えなければなりません。例えば学校単位で乳アレルギーの生徒がいない学校であるとか、または学年単位でもいいので学校側にゆだねることも検討してはどうでしょうか。市が回収してリサイクルするということならいいのですが、現在焼却しているとのこと。できることなら無理のない範囲でリサイクルをしていくべきだと考えます。

会 長 環境問題などからもリサイクルしたほうがよいという意見をいただいたのですが事務局はどのようにお考えですか。

事務局 学校側もSDGsの観点からもリサイクルしたいとお考えもあるのですが実際に行うとなると設備面で厳しいと回答をいただいております、難しいと考えております。ただ小規模校からはできるのではないかと回答をいただいております。

委員 リサイクルした手間をお金として活用できれば、やる気ができるのではないのでしょうか。

事務局 当初はそのように考えたのですが、1リットルの牛乳パックと給食の紙パック（200ml）は紙の厚みが異なるため、給食用の牛乳パックは0円になってしまうそうです。よって学校のメリットを言えないことあり、焼却している状況です。しかし焼却にも費用が発生していることから、リサイクルすることでその焼却費用を学校に還元できる仕組みができないか検討しております。

会長 0円では資源回収の仕組みを活用することは難しいかもしれませんが、事務局が説明したような学校への還元ができる仕組みができるといいと思います。事務局で検討した結果をまたご提案ください。

終了の時間になってしまいましたので、この後の試食の時間にまた意見等をいただければと思います。

では、令和5年度第2回学校給食センター運営委員会を終了させていただきます。